

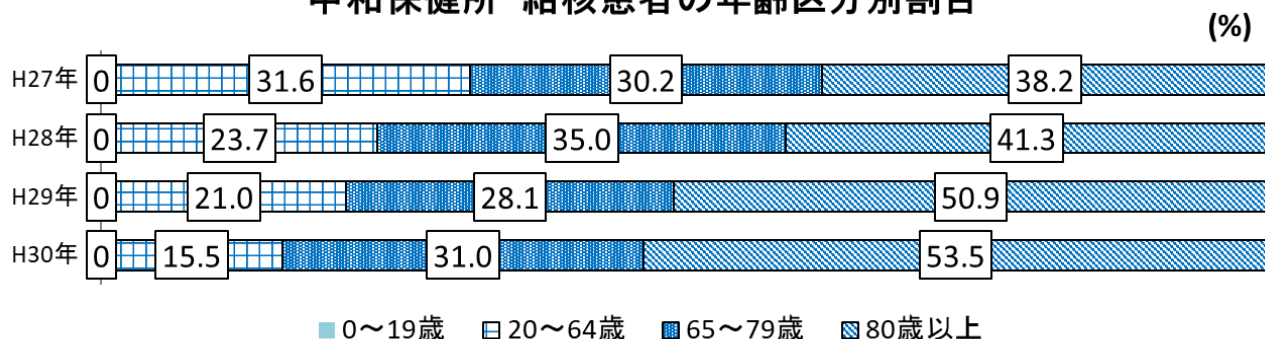
結核は過去の病気 ではありません

結核って？

結核は「過去の病気」ではなく、今でも国内で毎年約1万7千人の方が新たに発病しています。結核は、患者の咳やくしゃみに含まれる結核菌を吸い込むことで感染します。感染してすぐは症状がなく、時間が経過してから発病することが結核の特徴です。結核の初期症状は、咳、発熱など、風邪とよく似ているため、発見が遅れがちです。



中和保健所 結核患者の年齢区分別割合



中和保健所管内では、平成30年に58人の結核患者が見つかっています。うち65歳以上の方が8割を超え、特に80歳以上の結核患者が半数を超えていました。

昭和初期ごろはまだまだ結核が流行していた時代です。そのころに感染し、高齢になるとともに免疫力が低下し、発病する人が多くなっています。

また、糖尿病・腎臓病を患っている人、免疫抑制剤（ステロイド剤など）を常時服用している人は免疫力の低下に伴い、結核の発病リスクが高まります。

早期発見のためにできること

結核を早期発見することで、大切な家族や周囲の人への感染拡大を防ぐことができます。

定期健診を必ず受ける

胸部レントゲン検査で結核の発病が分かります。年に1回は健診を受けましょう。必要時には精密検査をきちんと受けましょう。実際に住民健診や職場健診で結核が見つかった人もいます。

症状があるときは早く受診する

結核を疑う症状（2週間以上続く咳、たん、微熱など）があったときは、早めに病院へ受診して、胸部レントゲン検査を受けてください。



<問い合わせ先> 奈良県中和保健所 保健予防課感染症係
〒634-8507 橿原市常盤町605番地の5
TEL 0744-48-3037